

東北応援ツアーレポート

2009 年度卒業 田中愛

A 福島コース

今回福島のツアーに参加させてもらって、1 番は今まで「私」対「被災地」の関係だったのが、「私」対「福島の住んでいらっしゃる一人ひとり」という関係になれたことです。

福島は原発事故のこともあり、足を踏み入れづらくなっていました。しかし、自分のこの目で見なければわからないこともたくさんあるだろうと思い、このツアーに参加しました。

まずは、波江町の誰一人いない町並みを見たとき、「自分のふるさとがこのような状態になったらどんなにつらいだろう』とやりきれなくなりました。でもそれが現実なのだ痛感しました。

その後訪れた J ヴレッジでは、私はサッカーに詳しくはないのですが、滅多に入れないところを拝見させていただきフィールドの変わりようを見て、説明を受けてとても切ない気持ちになりました。

宿泊させていただいたハワイアンズでも、支配人の方からお話を聞けると思っていなかったのが貴重な体験となりました。ハワイアンズでも地震当日からの地域の方々と心の交流についても教えていただき、なかなか出来ることではないなと感じました。なにより印象的だったのはハワイアンズに戻りたいとスタッフのみなさんが言っていたのが素敵だなと思いました。私もそのような職場、地域を創っていきたいと思います。そして、震災後に子どもたちが水遊びをしている当たり前の光景をみて涙が止まらなかったとおっしゃっていました。そのような日常の風景がいかに尊いものなのか心に響きました。

2 日目に訪れたあかい菜園はトマトをハウスで栽培している施設でした。トマトをただ作るだけでなく、たくさんのアピールポイントを持っていらっしゃいました。例えば機械を大学と一緒に開発して苗の健康診断をしたり、温度や湿度などを自動で管理するシステムを自社で開発したりしていました。実際に作っている人を見て、場所を見て、おいしいと感じたので私も安全だということを周りの人に伝えていきたいと思います。

アクアマリン福島では、水族館を実際に津波が襲ってくる様子を見せていただきました。そして復興に至るまでの道のりを話してくださいました。あそこまで早く復興できたのはたくさんの方々の力があつたからだと感じました。そして、アクアマリン福島のコンセプトが「生涯学習」ということで、普通的水族館では感じない深いところにある学びを、館内を拝見して感じました。

今回参加させていただいて、「被災地」という印象だったところが「観光地」に近づきました。確かに原発事故など正確な知識をつけるために勉強も必要かと思いますが、これからは観光地としてやはり訪れたいと思う人を一人でも増やして福島の活性化に協力できたらなと思います。また、大切な人を連れていきたい場所が増えました。今回の素敵な企画をありがとうございました。実行委員のみなさん、福島のみなさん、今回一緒にツアーに同行してくださった校友会のみなさんに感謝します。